

メナシュンベツ川小楽古岳西面直登沢 & ペンケ札楽古川楽古岳南東面直登沢

L 金澤 SL 栗山

M 千葉、早川、濱田、福家

沢教程を受けていない私は、代行山行と言うことで急遽参加させていただいた。メンバーは記録でしか見たことのない沢の大御所達と、私を含め新人 3 名であった。新人と言っても私以外は早川氏、濱田氏ともに北大 WV 等の現役である。

「こりゃ、きつくなるな」と思い、思った通りきつかった。

7月15日

07:30 発 - 13:00 小楽古 - 13:35 Co1350 より下降開始 - 16:00 590m 二股 C1

半年ぶりの全装が重い上、体が沢に未だ馴染んでなく相まってバランスが悪い。メナシュン～ポン楽古岳はお初のルートだが、あまり印象に残っている滝がない（健忘症気味ではある）。覚えているのは最初の 10m 滝と左岸ルンゼより巻いた 15m 滝くらいか。最後の藪こぎも少々でピーク北西の稜線に出た。下降はピーク東の尾根 Co1350 から北西に下るが、この沢が汚い。下降しても下降しても水流がチョロチョロでヌメヌメして石も安定せず歩きづらい。さすがに幕営予定地の Co 590 二股近くになると水流も増え、小滝も現れるが、懸垂することなく少々巻いたりして下降できた。

週末にかけて雨であったため流木は濡れていたが、若者二人の執念と言うか、宗教にも通ずる一心不乱な大量のガンビ剥ぎにより目出度く焚き火を熾せた。またテン場の整地もかなりの労力が費やされ、私の沢旅の中では一番の寝心地の良いテン場であった。ここに如何なる場所においても快適な生活空間を築くという北稜クラブの伝統（多分）の一面を見たような気がした。

水量は増えており、明日遡行する上流の三段の滝は大きく飛沫を上げていた。

7月16日

06:00 発 - 10:45 楽古岳 11:10 - 12:55 夏道分岐 12:15 - 14:00 楽古山荘

朝快晴であったが、出発時には雲に覆われる。水量は少々減ったようだがまだ多い。テン場から見えた三段の滝を直登し、少し進むと左への屈曲部から 200m 程雪渓で埋まっている。これを過ぎると滝が連続する。Co800 の滑りそうで厭らしい滝は左岸より小さく巻くが、一部立っている岩があり、ここはロープを出す。

昨日のポン楽古の沢とは大違いで、登り応えのある滝が連続する沢だ。濱田さんはわざわざ難しいルート取りをして果敢に直登に挑む。Co880 の滝はロープを出し右岸側壁を登ったが、上部はなかなか渋かった。トップの栗山さんが上手くクラックを利用してスッと

上がったが、私には出来ず、汚い格好で「うんしょ」と登った。この後も小滝が連続し、最後の詰めは昨日の藪こぎよりボリュームがあったが、列後方であったため楽をさせても

らった（先頭金澤さんお疲れ様でした）。やがてピーク北東のコル、札楽古からの夏道へ出る。ピークで一休みの後、夏道を下る。これが今日の核心であった。肩からの下りはなかなかの急勾配で、おまけに雨で濡れた泥は滑る滑る、転ぶ転ぶ。金澤さんはストックでサクサク降りていくが、栗山さんは膝の調子が悪くなり杖を片手に、濱田さんは両手に杖を。千葉さんはマイペースで後方を悠々と。早川さんは一人元気そうであった。幾度か転けながらメナシユン沢に辿り着き、楽古山荘へ到着。

久しぶりの全装での継続は大分体にこたえたが、逆に体を結構いじめたなど気持ちが良い。北稜クラブでの初山行は充実した遡行も出来たし、焚き火を囲んでの酒も旨かった。何より私の外に2人もタバコを吸う人がいて、涙が出るほど嬉しかった。その様なわけで、皆様どうもありがとうございました。

（記：福家）